

# 平成 24 年度 家勉充実プロジェクト実績報告書

## 1 学校名

安来市立第一中学校

## 2 研究の概要

### ◎ 研究主題

自ら学び、自ら考え、互いに高め合おうとする生徒の育成

～ 基礎学力の向上と、互いのかかわりを大切にした学習指導の工夫 ～

### ◎ 研究のねらい

#### 1 主題設定の理由

##### (1) 本校の教育目標

本校では、「高い知性と豊かな心を育み、たくましく実践する生徒の育成」を教育目標に掲げ、「自主 剛健 創造 協力」を校訓にしている。また、めざす生徒像を、

- 責任をもち自主的・創造的に行動する生徒
- 強健な身体とたくましい実践力をもった生徒
- 豊かな情操とするどい道德性をもった生徒
- 知識と技術を身につけ、すすんで学習する生徒
- あたたかい連帯感をもち、協力奉仕する生徒

として教育実践を行っている。

##### (2) 生徒の実態

本校生徒は全校 470 名（平成 24 年 10 月現在）で、概ね明るく活動的であり、友達思いである。ボランティア活動への取組がよく、年に数回、生徒会が企画する駅前清掃や花壇の整備などのボランティア活動には多くの生徒が積極的に参加している。

学習面では、多くの生徒が、指示されたことや出された課題にはまじめに取り組むことができる。しかし、根気よく学習に取り組む姿勢が身に付いておらず、忘れ物、授業中の私語、提出物が出せないといった課題をかかえる生徒もいる。家庭学習を含む基本的な学習習慣が身に付いていないことが原因と考えられるが、授業がわからない、やる気が出ない、予習・復習をしない、さらにわからなくなるという悪循環に陥っている生徒も多いと考えられる。

また、テストの成績や順位を励みにがんばろうとする生徒は多いが、学ぶことの意義を理解し、学ぶこと自体の喜びや楽しさを実感している生徒は少ないと思われる。さらに、いい考えをもっているにもかかわらず授業中に発表しないため、学習が深まらない。きちんと発言することに抵抗がある理由としては、自己表現力が弱い、恥ずかしいといった個々の問題に加え、学級の雰囲気（支持的な風土の有無）、さらには互いに意見を交換し合うことで学びが広がり、深まっていく経験に乏しいことなどが考えられる。

本校の教育目標、新学習指導要領の趣旨、生徒の実態をふまえ、一人一人が安来一中生としての誇りをもち、主体的に判断し、実行する力を身に付け、互いの信頼関係を基盤に、個を伸ばし、集団を高めていくことが大切であると考え、本主題を設定した。

## 2 家勉充実プロジェクトとのかかわり

家勉充実プロジェクトでは、生徒が主体的に家庭学習に取り組むことを目指している。本校の研究主題の副題「基礎学力の向上」と「互いのかかわりを大切にしたい学習指導の工夫」について研究を進めることで、このプロジェクトがめざすねらいを達成できると考えた。

### (1) 「基礎学力の向上」

「基礎学力」を以下のように解釈する。

- ・ 課題を解決するために必要な、各教科の要となる基礎的・基本的な知識・技能。
- ・ 真剣に授業に取り組んだり、意欲的に家庭学習に取り組んだりする主体的な学習態度。

基礎学力の充実のためには、家庭での学習習慣の確立が不可欠である。そこで様々な手だてを講じて生徒が家庭学習に向かうよう支援する。

### (2) 「互いのかかわりを大切にしたい学習指導の工夫」

「互いのかかわりを大切にしたい学習指導」は、友達との意見交換を通してものの見方や考え方を広げたり、深めたりすることができる学習、互いに協力し合うことが、よりよい表現（作品）を生み出す学習と解釈する。

話し合いの中で、他者の考えを聞き、自分の考えと比べたり、思いや考えを適切な言葉を選んでわかりやすく伝えようとしたりすることによって、思考力・判断力・表現力が磨かれていく。また、自らの学びが広がり、深まる体験をすることで、学ぶ喜びが実感できると考える。

学習の中で、かかわり合い、学ぶ喜びを共有することは、自ら学ぶ意欲を喚起し、家庭での学習への動機づけになる。

※ 本校では、「互いのかかわりを大切にしたい学習指導」に「言葉によるコミュニケーション」をキーワードとして取り組む。以下、言葉によるコミュニケーションを核としたかかわりを大切にしたい学習を「言語コミュニケーションによる学び合い」と定義する。

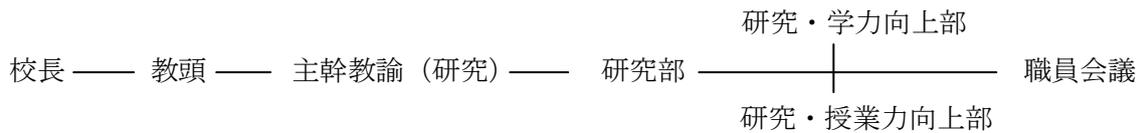
## 3 めざす生徒の姿

- 学ぶ楽しさに気づきながら、主体的に学習に取り組む生徒
- 友達と学び合うことを通して、自己の考えを広げたり深めたりし、かかわり合うことの価値を理解している生徒

## 4 研究仮説

- A 学習にのぞむ姿勢や学習にのぞみやすい雰囲気（学習環境）ができれば、互いのかかわり合いを大切にしたい学習ができるのではないかと。
- B 「言語コミュニケーションによる学び合い」をしていくことで、自分の考えが深まり、協力して物事を成し遂げる達成感を感じることができるのではないかと。
- C 学習したことが「分かった」という実感をもたせることができれば、より積極的に学習に取り組むことができるようになるのではないかと。

◎ 研究の体制（校内研究組織）



◎ 研究の実際

1 研究の内容

以下の（１）については学力向上部を中心に人権同和教育部や生徒指導部と連携して，（２）については授業力向上部で，（３）については学力向上部を中心に取り組んだ。

（１） 好ましい人間関係作りを目指した学級経営の工夫（仮説Aの具体的取組）

- ① 人権週間の取組
- ② QUアンケート
- ③ 人権集会
- ④ 人権同和教育講演会

（２）「言語コミュニケーションによる学び合い」を取り入れた授業づくり（仮説Bの具体的取組）

- ① 「言語コミュニケーションによる学び合い」をどうとらえるか，また授業にどう取り入れるかについての研究職員会議

各教科で具体的に実践例を出し合って話し合いを深めるとともに，教育雑誌に掲載されている実践例を参考に，次のように授業改善を図った。

- 「教育科学 国語教育」・・・新教材についての実践例を参考にして授業づくりに生かした。（例，3年論説文「聞くということ」で，筆者の考えをいくつかの定義づけのかたちにまとめ，一つを選んで作文を書く。）
  - 「教育科学 社会科教育」・・・公民分野において，言語活動を活発にするための発問の仕方についてヒントを得た。
  - 「数学教育」・・・数学におけるグループ学習やペア学習の方法や実践例を参考にして授業改善をした。
  - 「英語教育」・・・新学習指導要領で増加した1時間をどう有効に使うかの実践例があり，参考になった。（例，1年「Warm-up」の活用）
- ② 「言語コミュニケーションによる学び合い」を研究の視点に据えた研究授業の実施各教科，道徳，特活で全員が授業づくりにかかわる。

(3) 基礎的・基本的な学力を身につけさせるための学習指導の工夫・改善（仮説A, Cの具体的取組）

① 全学級で「授業の約束」の再確認

〈休み時間〉

- 次の授業の準備をしておきましょう。

〈授業時間〉

- チャイムが鳴った時には、着席をしましょう。
- 姿勢を正して、大きな声で、しっかりとあいさつしましょう。
- きちんとした服装で授業を受けましょう。（制服・体操服）
- 板書されたことや考えたことを、きちんとノートにとりましょう。
- 与えられた課題にしっかりと取り組みましょう。
- 自分の意見を、手を挙げて積極的に発言しましょう。

〈その他〉

- 授業で必要なものを忘れないようにしましょう。
- 提出物の期限を守り、必ず提出しましょう。
- 予習や復習を行い、授業の内容を理解する努力をしましょう。

学級掲示し、意識させることで、徐々に学習規律が守れるようになってきた。

② 小学校と連携した「学習の手引き」の作成

毎日の課題である自学ノートの実施の際に、「学習の手引き」を使って担任が指導し、自主学習が徐々にできるようになった。

③ 県学力調査の結果分析と対策の検討

ア 学力向上研修会の実施

i 全教職員での課題の共有

本校生徒の様子から、学力向上のためにどんな手だてが考えられるか。（共通理解）

「一中生の学力を向上させるためには、何が大切だと思いますか」

- ・ 各学年で、KJ法による協議
- ・ 全体への報告

ii 学年部ごとに対策を協議

イ 各学年部で学習意欲向上、家庭学習習慣確立のための対策を協議

- 終礼時の5分間学習 …… 生活時程の変更により、生徒どうしがかかわり合いながら活動する、家庭学習の意欲付けのための時間を確保した。

1年 …… 学習プリントの答え合わせ

- ・ 1週間1教科で（国・数・英）、毎日1枚ずつ、学習プリント（配信プリント・自校作成プリント）を配付し、家庭で行わせる。
- ・ 終礼時に答え合わせ。個別、ペア、グループ。
- ・ 家でしてこなかった生徒は、放課後取り組ませる。

2年 …… 新聞のコラムの視写

- ・ 1週間に1コラム、専用シートに書き写す。

- 3年 …… 補充プリントの答え合わせ
  - ・ 1ヶ月前後で1教科（数・社・理・英から）に集中的に取り組む。
  - ・ 毎日1枚ずつ学習プリント（自校作成）を配付し、家庭で行う。
  - ・ 終礼時に答え合わせ（個別～教え合い）
- 毎日の宿題 …… 家庭学習の習慣の定着を主眼とし、学年毎に課題を出す。
  - 1, 3年 …… 自学ノート
    - ・ 毎日必ず提出させ、未提出者は放課後（毎週木曜日）に取り組む。  
（2年は呼びかけのみ）
  - 2年 …… 配信プリント
    - ・ 月～木曜日は2教科（国・数・英から）、金曜日は5教科。（社、理は自校作成プリント）
    - ・ 家庭で解答し、翌日提出。未提出者は木曜日に放課後学習。
- ウ 各教科で基礎・基本の定着のための対策を協議
  - i 5教科 県の学力調査の結果を分析し、弱点を把握し、対策を協議し、実施した。（授業の見直し。小テストの実施。配信プリントの活用など。）
  - ii 実技教科 真の学力向上のためには、実技教科に一生懸命取り組む姿勢が不可欠であると考え、5教科と歩調を揃え、学習規律の確立や指導の工夫について協議した。  
  
（毎時間の忘れ物チェックや、失敗させず、完成できるような課題の選定を心がけた。授業時間に完成できなかった作品を放課後に完成させ、わかる、できるという体験をさせ、次の意欲へつなげるようにした。）
- ④ 小中連携による生活チャレンジ週間の実施
  - 前期 6月19日（火）～25日（月）  
後期 1月22日（火）～28日（月）
  - 早起き、朝ごはん、早寝、あいさつ、家庭学習、メディア時間について、目標を立てさせて取り組ませた。

### 3 研究の成果

#### (1) 仮説Aについて

- ・ 人間関係づくりの取組の結果、人権集会では生徒たちが心を開いて、時には自分のプライベートな部分まで、自分の言葉で一生懸命語る姿が多く見られた。聞く生徒も真剣に聞いていた。互いに安心して話し合える雰囲気作りに向けて、生徒の心を耕すことができたのではないかと考える。
- ・ 今年度の3年生は、昨年度の県学力調査の生活意識調査で、「一日の家庭学習時間が30分以下、またはまったくしない」と答えた生徒が76%もいた。これを課題として受けとめ、上記の取組を続けてきた結果、家庭学習に取り組む習慣を身につける生徒が増えてきた。

学校評価の生徒アンケート（平成25年1月実施）を資料として、県学力調査（平成24年4月実施）と比較すると、「家庭学習時間が30分未満」の生徒は、

3年 54.0% → 11.9%

2年 65.0% → 33.8%

1年 46.0% → 12.4%

と減少しており、家庭学習への取り組みは向上しつつある。

- ・ グループ学習やペア学習を取り入れることにより、授業に参加しにくい生徒も課題に取り組む姿がみられるようになった。また、ペアやグループの編成の際に、QUアンケートの分析を参考にすることは有効であった。
- ・ 終礼時の5分間学習においても、静かに全員で視写に取り組んだり、課題の答え合わせや教え合いをしたりすることを通じて、家庭学習への意欲づけにつながっていることが、生徒や保護者のアンケートからわかる。

(生徒アンケート「毎日の課題が役立っているか」・・・「思う・ややそう思う」が82.5%)

#### (2) 仮説Bについて

- ・ どの学級でも、グループ学習やペア学習に意欲的に取り組む姿が見られるようになり、学び合いの学習の良さを感じとる生徒が増えてきた。
- ・ 生徒たちは、グループ学習でホワイトボードを使うことに慣れてきた。意見を羅列するだけでなく、意見間の関係性を図示することができるようになり、話し合いが深まるようになってきた。また、意見を出し合う際に名前をボードにはることで、全員が主体的に参加することができるようになった。
- ・ TTの授業では教師がペア学習の具体例を示すことで、生徒が失敗を恐れず、積極的に取り組めるようになってきた。

#### (3) 仮説Cについて

- ・ グループ学習では、ホワイトボードを活用することで、どの生徒も学習に参加しやすくなった。また、生徒の理解を深めることができ、より学習に積極的に取り組むようになった。
- ・ 各教科の成績が、目標値や県平均と比べ、全体としては少しずつ向上してきた。学校評価の生徒アンケートでも「課題は学力アップに役立っている」「勉強をがんばりたい」という生徒の割合は高い。

## 4 課題と今後の展望

### (1) 学び合いのある授業について

- ・ 学び合いに参加しにくい生徒へは、ペア学習からスタートし、必ず参加しなければならないように仕組み、次第に人数を3人、4人と増やしていく等の工夫をする。
- ・ 学び合いの学習をすることで、一人で学習したり、教師の話を聞いたりするだけよりも「わかるようになった」、「できるようになった」と実感できるような授業づくりを、今後も心がけていく必要がある。
- ・ 言語コミュニケーションは、本来自分から「伝えたい」、「知りたい」という思いをもって行うものである。生徒が本当に「自分の考えを伝えたい」、「相手の考えを知りたい」という気持ちをもって取り組めるような場面設定を、授業づくりに取り入れる。

(2) 家庭学習習慣確立について

課題を与えても、一人ではなかなかできない生徒、生活習慣に問題がある生徒などが少なからずいる。これをどのように支援していくか、放課後や長期休業中の補充学習なども含め課題となっている。また、家庭の協力を得にくい生徒もいる。こうした学力や学習習慣・意欲の二極化が今後の課題である。

(3) まとめ

本年度、本校は安来市教育研究大会の発表を行った。研究主題と家勉充実プロジェクトの趣旨が合致するため、研究発表への取組に位置付けてこの事業を行ってきた。その結果、家庭学習の充実のためには、課題を出したり、直接的な学習習慣確立にかかわる指導したりするだけでなく、生徒の学習意欲を高めるための授業力の向上が不可欠であると改めて認識した。

また、これらの成果については、安来市学力向上担当者研修会を通して研究成果を市内に普及することができた。

来年度以降も生徒の基礎学力の向上のために、今年度の取組を検証し、改善しながら継続していきたい。